

「ディスカバー農山漁村の宝」(第5回選定)

第3回有識者懇談会概要

1. 日時：平成30年11月22日(木) 16:40~17:00
2. 場所：総理官邸3階南会議室
3. 出席者：片山内閣府特命担当大臣(地方創生担当)、西村内閣官房副長官、西川内閣官房参与、室本農村振興局長
林座長、あん委員、今村委員、織作委員、田中委員、藤井委員、三國委員、向笠委員、横石委員(欠席：永島委員)

4. 概要：

(林座長)

- ・前回の有識者懇談会において、第5回選定の32地区を選定し、この中から委員の皆様にご覧いただき、特別賞の審査をいただいたので、本日の懇談会で決定したい。
- ・短時間ではあるが、活発な意見交換を行って参りたい。

【開会挨拶】

(片山内閣府特命担当大臣)

- ・前回の有識者懇談会において32地区の優良事例が選定されたが、選定地区の取組は、売上や雇用の増加など、いずれも地方創生の礎となるもの。
本日は、グランプリと特別賞を決定することになるが、これらの事例が、全国各地の人口減少や地域経済の伸び悩んでいる地域に対して、解決に向けたきっかけを与えるような存在になってほしいと願っている。
地方創生の観点からも、「ディスカバー農山漁村の宝」の取組がさらに飛躍していくことを期待している。

【事務局説明】

(室本農村振興局長から、資料に基づき、「グランプリ及び特別賞」「2019年度の進め方」について説明。その後、委員からいただいた主な御意見は以下のとおり。)

- ・素晴らしい取組が多く、最初の頃に比べ、毎年だんだんと選定が難しくなってきた。
- ・1980年代には珍しい存在であった地域活性化に取り組む人達が、今では評価され、賞をもらっていることに感動している。この賞は、そういった意味で、めげない人達に対して評価をしている所が素晴らしいと思う。
- ・地域特有の文化・財産・産物・景色・言葉を活かしたキャッチフレーズやネーミングが非

常にキャッチーで、上手に言語化してきているなと頼もしく思う。

- ・やはり継続というものが大事だと思うので、是非この取組を続けていただきたいと思う。
- ・今回の選定地区については、マンパワーを感じるものが多く、特に女性の活躍が目を引く。
- ・大規模な投資によって成功した事例のみならず、身近にある素材を使った成功事例が、農山漁村の方へ、頑張ろうという気持ちを起こさせてくれたのではないかとと思う。
- ・グランプリ、特別賞については、多彩な切り口から魅力ある取組が多数あり、選考は難しく、迷った。
- ・サミットを開催し、大賞を選出することについては賛成だが、5年に1回になるのかあらかじめ決めておく必要があるのではないかと。また、アンケート調査においては、定量と言っても各々基軸がバラバラなので、一定の指標や視点の明確化が必要になると思う。そのうえで、定性的な部分は個性を見せてもらいたい。
- ・全体的なところでは、実績の数字の上がり方が素晴らしいと思う一方で、上昇率は良いが、絶対値で見ると弱い所もあり、そこに気付けることが重要だと思った。ただ、茂木プラザの雇用が4名から34名というのは素晴らしい。
- ・来年度に向けては、現地調査でも言われた、選定地区同士の交流やプロモーション等、「ディスカバー農山漁村の宝」の知名度がより向上するための取組が重要だと思う。
- ・2019年のラグビー世界大会と2020年のオリンピックの顧問でジビエの専門をやらせていただいているが、施設の問題もあり、日本では多く廃棄されている状況。日本国民がジビエをご馳走と思える運動を促進していきたいと思うので、是非政府を挙げて設備を整えていただきたい。
- ・前回選定されたジビエに取り組む団体をいくつか訪ねたが、選定後に注目されて、より一層取組を推進する志を持ったということに加え、隣接地域でジビエに取り組む方々が、今回新たに応募されていたので、波及効果が非常にめざましいと思う。
- ・現地調査に行ったが、選定団体は選定後の知名度アップを望んでいるので、今後さらに頑張りたいと思う。
- ・この賞に選ばれた方々が自信と誇りを持って東京に向かって情報を発信していき、東京の方に地方は頑張っているということをしつかりとPRして欲しいと思う。それが今、日本で一番欠けている点だと思う。
- ・来年については、賞としてのブランド力や価値をますます高めていくためにどうすれば良いかということに、力を入れていくことが必要だと思う。
- ・1,015件の応募があったが、量が増え、質も高まっている。
- ・来年については、大賞の選定やサミットの開催がどの程度のものかによって、再来年以降の大賞選定の実施の有無等、色々なことを次回の有識者懇談会で決めていただきたいと思う。

(林座長)

- ・意見交換を終了する。
- ・「第5回選定のグランプリ及び特別賞」「2019年度の進め方」について了承することによろしいか。

(異議なしの声)

(林座長)

- ・グランプリ及び特別賞は案のとおりとする。
- ・事務局においては、了承された「2019年度の進め方」に基づき、今後の作業を進めていただきたい。

(以上)